

発言No. 1

受付No. 16

令和7年11月20日

9時58分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 8 番

氏名 森谷 公昭

答弁を求める者

☒ 市長

☒ 教育長

☒ 監査委員

☐ 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 工業用水道会計と中国電力との合意書の適法性について

- ① 当該合意書の法的根拠(条例・規則・議会議決)の有無について伺う。
- ② 合意書が市の財政運営を拘束する理由と、市の自治権への影響について伺う。
- ③ 地方自治法及び水道法との整合性について、市としての見解を伺う。
- ④ 合意書を見直す、または破棄する場合の手続きと可能性について伺う。

2. 工業用水道会計における利益剰余金約4億円の算定根拠について

- ① 利益剰余金の算定方法・基準・担当課の判断過程について伺う。
- ② 4億円という額の積算内訳と妥当性について伺う。
- ③ 過年度計算に誤りや過大計上がなかったか再検証の必要性を伺う。

3. 工業用水道に関する監査委員の再調査の必要性について

- ① 工業用水道会計・合意書に関する監査の妥当性について伺う。
- ② 新たな事実・疑義が生じた場合、再監査を行うか伺う。
- ③ 監査委員の調査範囲・独立性の確保について伺う。

4. 行政の説明責任(アカウンタビリティ)の強化について

- ① 市民への説明の姿勢・基準をどのように定めているか伺う。
- ② 説明不足・回答拒否が生じた際の改善策について伺う。
- ③ 行政説明の質を高めるための研修・ルール化の可能性について伺う。

5. 教育委員会の公益通報への対応改善について

- ① 通報受付から調査、回答に至るまでの運用手順について伺う。
- ② 通報への初動対応が遅延する事例の改善策を伺う。
- ③ 通報者への不利益扱い防止の仕組みについて伺う。

6. 教育委員会が「裁判中」を理由として説明を拒否する運用の妥当性について

- ① 裁判係属中における説明可能範囲を整理しているか伺う。
- ② 他自治体の運用事例を調査したか伺う。
- ③ 情報公開と裁判対応のバランスの取り方について伺う。

7. スケート場の用途変更の再評価について

- ① 用途変更を行った際の根拠資料と判断過程を伺う。
- ② 市民説明が十分であったか、再評価の必要性を伺う。
- ③ 用途変更後の費用対効果の検証状況を伺う。

8. スケート場跡地活用における市民意見募集の実施について

- ① 市民意見募集(パブコメ等)の実施方針を伺う。
- ② 住民参加の機会が不足している現状の認識を伺う。
- ③ 今後の活用案策定に市民の意見を反映する仕組みを伺う。

9. まちづくり条例に基づく行政説明義務の徹底について

- ① 同条例が定める説明義務をどのように運用しているか伺う。
- ② 市民質問に対する不十分な回答が生じる理由を伺う。
- ③ 説明義務の徹底に向けた具体策について伺う。

10. 議員による事前審査(事前協議)の廃止・見直しについて

- ① 事前審査が行われている背景と法的に許容される範囲を伺う。
- ② 事前に協議されることで議会審議が形式化する問題をどう認識しているか伺う。
- ③ 公開性・透明性を高めるための見直しを行うか伺う。

11. 学校給食費の負担軽減及び無償化の検討について

- ① 無償化に向けた費用試算と財源確保策を伺う。
- ② 国の動向と他自治体の取組状況をどのように把握しているか伺う。
- ③ 段階的軽減制度の導入可能性を伺う。

12. 子育て支援における家庭保育と保育園利用者の格差是正について

- ① 在宅育児家庭への現行支援の妥当性を伺う。
- ② 家庭保育への支援制度拡充の可能性を伺う。
- ③ 子育て支援の公平性確保に向けた方針を伺う。

13. 高齢者向け 100 円タクシー制度の恒常運用について

- ① 試行結果の評価と課題を伺う。
- ② 恒久化するための財源と制度設計について伺う。
- ③ 利用対象者・エリア拡大の可能性を伺う。

14. ごみ出し支援サービスの公的導入について

- ① 高齢者や障害者へのごみ出し支援のニーズをどう把握しているか伺う。
- ② 民間サービスと行政サービスの役割分担について伺う。
- ③ 制度導入に向けた課題と検討状況を伺う。

15. 市役所の説明の「誠意義務」明文化について

- ① 不十分な説明や曖昧な回答が生じる要因を伺う。
- ② 説明責任を果たすための明文化・ルール化の必要性を伺う。
- ③ 市民満足度向上につながる説明改善策を伺う。

16. 市の不服審査制度の運用改善について

- ① 不服審査の手続き期間と運用の現状を伺う。
- ② 裁決が遅れる理由と改善策を伺う。
- ③ 審査内容の透明化(統計・概要公表)の可能性を伺う。

17. 市役所の契約・入札情報の透明化について

- ① 契約内容・仕様書・評価基準の公開範囲について伺う。
- ② 随意契約が生じる場合の基準と妥当性について伺う。
- ③ 情報公開を拡大するための改善策を伺う。

18. 行政文書に対する開示拒否の運用見直しについて

- ① 不開示理由の判断基準が過度に広すぎないか伺う。
- ② 開示拒否が市民不信を招く現状についてどう認識しているか伺う。
- ③ 不開示文書の見直し・公開拡大の可能性を伺う。

19. 公文書管理条例の制定について

- ① 文書管理の現行ルール of 課題について伺う。
- ② 条例制定の必要性と他自治体の事例調査状況を伺う。
- ③ 保存・廃棄ルールの透明化に向けた市の方針を伺う。

20. 三隅火力発電所周辺の環境影響調査について

- ① 大気・水質・騒音・振動など、現行の環境影響調査の内容を伺う。
- ② 周辺住民から寄せられている健康・環境に関する不安への対応を伺う。
- ③ 発電所運用に伴う環境負荷の変化を、市としてどう評価しているか伺う。

21. 公園の草刈り・溝掃除の行政負担化について

- ① 市管理区域において市民が草刈り等を行っている現状の認識を伺う。
- ② 危険作業を住民に依存している実態と改善策を伺う。

- ③ 市が責任を持って維持管理するための体制強化を伺う。

22. 空き家対策の強化について

- ① 所有者不明家屋・老朽空き家の現状把握を伺う。
- ② 解体・修繕などの支援制度の拡充可能性を伺う。
- ③ 空き家バンクの実効性向上策を伺う。

23. 住宅確保困難者への支援強化について

- ① 市内における住宅確保困難者の実態把握を伺う。
- ② 家賃補助や緊急住宅支援の拡充可能性を伺う。
- ③ 民間賃貸住宅への入居支援制度の改善策を伺う。

24. 生活道路の補修及び舗装計画の公開について

- ① 道路補修の優先順位をどのように決めているか伺う。
- ② 補修予定を住民に分かりやすく公開する仕組みを伺う。
- ③ 老朽化が著しい道路への対応方針を伺う。

25. 浜田医療センターの医師確保対策の強化について

- ① 医師確保の現状と課題を伺う。
- ② 医師の待遇改善策や魅力向上策を伺う。
- ③ 外部医療機関・大学病院との連携強化について伺う。

26. 小児救急体制の強化について

- ① 夜間・休日の小児救急の受入体制を伺う。
- ② 小児科医不足への対応と改善策を伺う。
- ③ 子育て世代からの要望をどう市政に反映しているか伺う。

27. 学校の教育環境（ICT・空調等）の改善について

- ① ICT 整備（端末、通信環境）の現状と課題を伺う。
- ② 空調設備の改善計画と実施状況を伺う。
- ③ 学校施設全体の環境改善計画を伺う。

28. 不登校支援の充実及び授業動画配信制度の導入について

- ① 不登校児童の学習保障に関する現行支援策を伺う。
- ② 授業動画配信を導入する際のメリット・課題について伺う。
- ③ 不登校児童が「置いていかれない」ための新たな支援策を伺う。

29. 地域包括ケア体制の見直しと相談員増員について

- ① 地域包括支援センターの現行体制の課題を伺う。

- ② 相談件数の増加に応じた staffing の改善策を伺う。
- ③ 高齢者支援の質向上に向けた体制強化を伺う。

30. 大雨災害時の避難誘導體制の改善について

- ① 避難情報の発信方法の現状と改善点を伺う。
- ② 避難所運営体制と人員配置の課題を伺う。
- ③ 災害時の住民誘導の実効性を高める施策を伺う。

31. 防災無線の音質改善とスマホ連携強化について

- ① 防災無線が「聞こえない」事例をどう把握しているか伺う。
- ② 音質改善や再整備の必要性を伺う。
- ③ スマホアプリ等への同時配信の拡充について伺う。

32. 救急搬送の待機時間短縮策について

- ① 救急搬送における待機時間の現状を伺う。
- ② 受入医療機関との連携改善策を伺う。
- ③ 救急搬送体制全体の効率化について伺う。

33. 市税滞納整理の改善と相談体制強化について

- ① 滞納整理の手続きと市民への対応方針を伺う。
- ② 生活困窮者への相談体制の改善策を伺う。
- ③ 納付相談・猶予制度の周知方法について伺う。

34. 市役所職員の接遇向上研修の実施について

- ① 市民から寄せられる接遇に関する課題をどう認識しているか伺う。
- ② 研修の実施状況と効果測定の方法を伺う。
- ③ 受け身対応を改善するための取り組みを伺う。

35. マイナンバーカード業務の改善について

- ① 申請・交付窓口の混雑状況の改善策を伺う。
- ② トラブル対応の体制強化について伺う。
- ③ 予約制度やオンライン手続きの利便性向上策を伺う。

36. 市内事業者への優先調達制度の強化について

- ① 地元企業への発注割合の現状を伺う。
- ② 優先調達の制度化や評価基準の設定について伺う。
- ③ 地元企業育成と連動した調達方針を伺う。

37. 市営住宅の入居基準の見直しについて

- ① 入居基準(収入・家族構成等)の妥当性を伺う。
- ② 高齢者・ひとり親家庭等の優先入居の在り方を伺う。
- ③ 入居基準の見直しに向けた考えを伺う。

38. 地域交通(デマンドタクシー)の強化について

- ① デマンド交通の利用状況と課題を伺う。
- ② 運行エリア・便数・対象者の見直し可能性を伺う。
- ③ 利便性向上に向けた改善策を伺う。

39. 市内バス路線の維持・再編について

- ① 路線廃止や縮小の要因をどのように認識しているか伺う。
- ② コミュニティバス等との役割分担を伺う。
- ③ 路線維持・再編に向けた今後の方針を伺う。

40. JR 浜田駅周辺整備計画の見直しについて

- ① 駅周辺整備の現状と進捗状況を伺う。
- ② 費用対効果の検証と再評価の方針を伺う。
- ③ 市民意見や利用者ニーズをどのように反映するのか伺う。

41. 旧三桜酒造跡地の透明性ある利活用について

- ① 跡地活用案の検討状況と判断基準を伺う。
- ② 事業者選定の透明性確保について伺う。
- ③ 市民意見の反映や情報公開の方針を伺う。

42. 港町周辺の再開発事業における情報公開強化について

- ① 再開発の計画内容・進行状況の公開状況を伺う。
- ② 地域住民に対する説明と合意形成の現状を伺う。
- ③ 情報公開を拡大する今後の方針を伺う。

43. 河川の定期点検体制の強化について

- ① 河川の危険箇所の把握状況を伺う。
- ② 点検・補修の頻度と優先順位の判断基準を伺う。
- ③ 住民通報との連携強化について伺う。

44. 農業振興策(担い手支援)の強化について

- ① 市内農業の担い手不足の現状を伺う。
- ② 新規就農者への支援制度の改善策を伺う。
- ③ 農業法人・企業参入の支援方針を伺う。

45. 米不足・備蓄米の流通実態調査について

- ① 市として備蓄米の管理状況と把握方法を伺う。
- ② 米不足時の供給体制や調整の仕組みを伺う。
- ③ 市内での流通の透明性確保策を伺う。

46. コメ利権構造の実態解明について

- ① 米流通に関わる組織・団体の役割を伺う。
- ② 利権構造が存在するか否か、市としての見解を伺う。
- ③ 利害関係による不透明さを解消するための調査方針を伺う。

47. 中小企業の事業承継支援の拡充について

- ① 市内事業者の事業承継の現状と課題を伺う。
- ② 専門家派遣や支援制度の拡充可能性を伺う。
- ③ 承継後の経営支援をどのように行うか伺う。

48. 副業・複業支援政策の導入について

- ① 副業・複業のニーズと市民の現状把握を伺う。
- ② 相談体制や学習支援の導入可能性を伺う。
- ③ 市内企業との連携による副業推進策を伺う。

49. 地域商店街活性化の戦略策定について

- ① 商店街の空き店舗状況・客数の現状を伺う。
- ② イベントやマーケティング支援などの活性化施策を伺う。
- ③ 商店街と行政の協働による戦略策定の必要性を伺う。

50. 市内観光プロモーションの改善について

- ① 現行の観光PRの課題をどう認識しているか伺う。
- ② SNS・デジタル活用の改善策を伺う。
- ③ 地元観光資源を活かした新たなプロモーション手法を伺う。

51. 外国人観光客への受入環境整備について

- ① 多言語対応や案内表示の整備状況を伺う。
- ② 交通案内・Wi-Fi環境整備などの課題を伺う。
- ③ 外国人観光客からのフィードバックをどう活かすか伺う。

52. 暮らしの相談窓口のワンストップ化について

- ① 相談窓口が分散している現状の課題を伺う。
- ② ワンストップ化に向けた体制整備の可能性を伺う。
- ③ 相談業務の効率化と市民利便性向上策を伺う。

53. 障害福祉サービスの利用調整の見直しについて

- ① 利用待機者の現状と課題を伺う。
- ② 利用調整の手続きの改善策を伺う。
- ③ サービス提供体制の強化方針を伺う。

54. 保育園と家庭保育の支援格差是正について

- ① 在宅育児家庭への支援の現状と課題を伺う。
- ② 支援格差を是正するための施策検討状況を伺う。
- ③ 子どもと家庭の状況に応じた公平な支援制度の方針を伺う。

55. 保育園の待機児童ゼロ計画の強化について

- ① 市内の待機児童数と課題認識を伺う。
- ② 定員拡大・保育士確保策の強化方針を伺う。
- ③ 今後の整備計画と支援策を伺う。

56. 保育士の処遇改善について

- ① 賃金・勤務環境の現状評価について伺う。
- ② 人材の離職防止と確保策を伺う。
- ③ 処遇改善に向けた行政としての方針を伺う。

57. 避難所のバリアフリー化について

- ① 避難所における高齢者・障害者の環境整備状況を伺う。
- ② トイレ・段差・動線などの改善点を伺う。
- ③ バリアフリー化の計画と優先順位を伺う。

58. 若者が暮らしやすい浜田市の実現について

- ① 若者の定住・就労に関する課題認識を伺う。
- ② 若者支援策(住宅・就労・交流機会)の現状を伺う。
- ③ 若者流出を防ぐための新たな施策方針を伺う。

59. 人口減少対策の実効性評価について

- ① 現行の人口減少対策の成果と課題を伺う。
- ② 過去の施策が効果を上げなかった要因を伺う。
- ③ 実効性の高い新たな人口政策の方向性を伺う。

60. 公金支出の透明化と効果検証について

浜田市が実施する地域振興事業や補助金を原資とする業務委託において、一般社団法人奥島根弥栄及び株式会社シマネプロモーションが関わる事業を含め、契約内容や成

果物の不明確さ、随意契約が継続している事例が見受けられます。

当該事業においては、委託内容が「一式」等で明確でない契約、成果物の検証が困難な業務、複数年にわたり同一業者との随意契約が行われていることなど、市民から見て十分に説明できない点が確認されています。

これらは、市民が負担する「公金」を用いて実施される事業であり、契約の透明性・公平性・妥当性、事後の効果検証が確保されることが行政・議会の双方にとって不可欠です。

特定の事業や法人のみに限らず、将来の公金支出全般の改善と透明化を目的とした制度整備に係る以下4項目について所見を伺う。

- ① 補助金事業及び地域振興事業における委託契約について、契約内容・見積り内訳・成果物を明確にし、公開を徹底すること。
- ② 随意契約を行う場合には、その理由書(選定理由)を作成し、必要に応じて議会に報告する仕組みを整えること。
- ③ 成果物が不明確な業務(アドバイス業務、ディレクション業務等)については、契約前に成果指標(KPI)を設定し、事後の成果検証を義務付けること。
- ④ 補助金を原資とする委託事業について、契約書・仕様書・成果報告書の情報公開を進め、市民が確認できる仕組みを整えること。

61. スケート場の問題について

① 請願無視・調査拒否(教育長・教育部長)

・令和6年6月25日の市長協議で、教育長が「スケート場を存続するかどうかの判断材料は今回の報告書でよい」「令和6年6月に決着をつけたい」「9月か12月に詳細設計の補正予算を」と発言し、請願を無視して方針を決定を急いだのはなぜか?

・請願が追加調査を求めたのに、なぜ追加調査を一切行わなかったのか?

・36,600人という根拠のない実現可能性を検討していない想定を判断材料とした理由は?

② 利用団体シミュレーション資料の排除

・利用団体が提出したシミュレーションを「検証しない」「頼んでいないから」と拒否した理由は?

・久保田市長に対し「シミュレーションや資料を提出したが、頼んでいないから検証しないと担当課長に言われた。事実確認の上、協働のまちづくり推進条例のとおり、検証しきちんと対応してほしい」という趣旨の市長直行便での訴えがあったか?

・この市長直行便提出者に対して「今後議会と議論して方向性を決めていく。つきましては今後個別の求めには応じませんのでご理解ください。」と書いたのは本当か?

・市民が自分のこととしてコンサル資料を検証し、疑問点や非合理的な記述、事実では無い記載の指摘もふくめて、実現可能性の高いと考えるシミュレーションを根拠資料とともに提出している。なぜ、頼んでいないという理由で検証しなかったのか?

・今後求めに応じないとはどういう意味か?この市民はこの市長直行便の回答に「今後求めに応じない」と書いてあることを根拠に「スケート場に関する質問には答えな

い。意見は聞かない。」という対応を担当課長から受けている。多くのことは議会と議論をして方向性を決めるが、それらは説明しなくてもよいということか？

- ・ 本当の理由は何か？なぜ本当の理由を書かなかったのか？

③ 指定管理意欲の隠蔽と虚偽説明(担当課長・令和6年6月25日委員会)

- ・ 担当課長は指定管理に意欲を見せた者がいたことについて、「コンサルは指定管理は難しいと判断した」と説明した記憶があるか？

- ・ 議会でのこの発言をうけて市民が「他の事業者に対しても指定管理ができるかどうかの判断を示した資料がない。そういう事実があると思えない。公文書にそのような記録もない。コンサルに確認してほしい」と担当課長に頼んだが、「確認する必要はない」と断った。理由を尋ねると「自分は確かに前の担当者に聞いた記憶があるから」というものだった。記録や文書に無いなら確認して欲しいと再度お願いしたが、「必要ない。確認しない。」と断られ、仕方なくコンサルに直接メールで回答を求めたところ、コンサルから「業務の範囲外。判断した事実はない」と担当課長を通じて回答があった。重要な内容について事実ではないことを答弁しているが、訂正や謝罪したか？

- ・ 方針判断の核心となる情報を誤って伝えた責任をどう捉えているか？

④ 成果品改ざん・原本と異なる概要版の使用

- ・ 市職員が編集した概要版を「成果品」として議会・教育委員・スポーツ推進審議会・市民に示し続けている理由は？

- ・ 原本ではない資料を成果品扱いした責任の所在は？

⑤ 成果品の納品日偽装・検査義務違反

- ・ 実際の納品日(12月15日)と異なる日付(12月8日)で「納品・検査済」と記載した理由は？

- ・ 納期遅延にもかかわらず遅延金の減額処理を行わなかった理由は？

- ・ 納品の7日前に「納品があった検査に合格した」という起案をかいていることは事実反するため虚偽公文書作成罪にあたるという指摘もある。またこれをもとに満額の支出がおこなわれており、契約書どおり遅延部分を減額しておらず、虚偽公文書行使罪という犯罪行為にあたるという指摘もある。市民が確認したところ、契約管理課は事実であれば履行確認ができていないため問題があると答え、人事課は明らかに問題があると言っている。市はこの事務処理をどう考えているか？

⑥ 録音拒否・電話切断問題(市長公室長)

- ・ 市長公室長が市民からの問い合わせに対応中突然「録音しているか？」と確認してきたため、「録音している」というと、「録音するなら話さない。切る」と対応した理由は？

- ・ 市民が正確な記録とあとから確認できるように録音する行為は禁止されているか？

- ・ 市の職員にたいして何らかの支障をきたすか？

- ・ 市長はこの対応について録音があるので提出できるが、事実であればどのような問題があるかと考えるか？

⑦ 教育長の「教育委員会が判断した」虚偽発言(令和6年6月25日)

・教育長は「教育委員会として別用途が妥当と判断している」と発言したが、議決記録は存在するか？

・議決のない内容を「教育委員会の判断」と述べた理由は？

・合議体の意思をねつ造して説明したのではないか？

62. リハビリテーションカレッジ島根への支援を市が避け続けている理由について

① 文化・経済・福祉への効果が極めて限定的な施設へ多額の補助金を投じる一方、地域医療を根本から支えている教育機関にはなぜ慎重なのか。文化ホール約 7,000 万円、こども美術館約 9,000 万円、体験村約 3,000 万円(閉館後も 1,000 万円)、大学関連教育施設約 23 億円など、「市民生活の根幹に関わらない施設」には相当額の公費投入が続いている。しかし、浜田市の医療・介護の“生命線”ともいえるリハビリテーションカレッジ島根には、十分な検討すら行われていない。市として、この著しい“投資の偏り”をどのように説明するのか。

② リハビリテーションカレッジが地域医療を直接支えている事実を、なぜ市は十分に評価しないのか。同校の卒業生は、浜田市及び近隣の医療機関・福祉施設へ 100 名以上就職し、国家試験合格率 100%を達成、若者定住と医療人材不足解消に直結している。市は、この圧倒的な地域貢献をどこまで正確に把握し、どう評価しているのか。

③ 旧三隅町の資産(工業用水道会計 4 億円、合併時の地域振興基金 20 億円)を、同じ三隅町の教育・医療人材に使うことの何が問題なのか。リハビリテーションカレッジは旧三隅町の施設であり、本来は旧町内で完結できる地域課題であった。合併後に「市全体での公平性」を理由に支援に消極的であるが、そもそも浜田市は合併によって三隅町の財政資産(20 億の基金・合併交付金 200~300 億)から莫大な恩恵を受けてきた。市として、旧三隅町の貢献と歴史的経緯をどう認識しているのか明確に答えられたい。

④ 費用対効果・社会的効果の比較を行えば、リハビリテーションカレッジが最優先で支援すべき施設であることは明白ではないのか。文化施設は“あれば良い”が、リハビリテーションカレッジは“無ければ地域医療が崩壊する”。この決定的な違いを踏まえ、市はなぜ同校の支援を優先順位の上位に置かないのか。

⑤ 市は今後、同校をどう扱うつもりなのか。人口減少・医療人材不足・若者流出という市の最大課題すべてに効果を持つ教育機関として、同校への継続支援は最も合理的である。市として今後、支援を前向きに検討する意思があるのか、明確に示すよう求める。

63. 添付ファイル削除による公文書改ざん疑いについて

① アイススケート場のコンサルタントとのメールの開示について、本来存在したはずの添付ファイルの情報(添付ファイルの有無を示す行)が、黒塗りではなく完全に削除されている理由を伺う。なぜ行ごと切り取るという処理を行ったのか、具体的な説明を求める。

② メールの件名、宛先、CC、送受信日時、添付ファイルの存在を示す情報は、いずれも行政文書の構成要素であり、公文書に該当するとの認識はあるか。市としての見

解を伺う。

③ 添付ファイルの存在そのものを隠す目的で行単位の削除を行うことは、文書の真正性を損なう公文書の改ざん・改編に該当する可能性が高いと考えるが、市はどのように評価しているか。また、どの法令・規程に基づきこの削除行為を正当化しているのか説明を求める。

④ 今回の削除行為は、コンサルタントとのやり取りにおいて市にとって不都合な内容を隠すために意図的に行われたものではないか、内部での判断過程・決裁過程を含めて説明を求める。

⑤ 原本メールとの照合作業を行い、添付ファイルの存在を含めた完全な形式で再度開示を行う意思があるか伺う。また、今回の開示処理が不適切であった場合、どのように是正するのか具体的な方針を伺う。

64. 道の駅ゆうひパーク三隅の指定管理に係る不透明感のある選定について

C社が過去に指定管理で選ばれた。ABC社の競争であったが、yさんはA社のブレンとして参加していた。C社が指定管理業者として選ばれた時に、yさんはC社の中心メンバーとして勤務していた。その後yさんが会社を設立し社長として次期指定管理業者として予定されている。浜田市に資料を開示請求してもわざと遅らせているのか、開示されない。ガラス張りの運営を望むが、市の所見を伺う。

発言No.

2

受付No. 5

令和7年11月18日

10時00分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 14 番

氏名 串崎 利行

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 農業の振興について

(1) 圃場整備事業の進捗と効果について

- ① 弥栄地区では現在圃場整備が進んでおり、区画の拡大や水路・畦畔・農道整備が行われている。圃場整備の進捗状況、対象面積、完了見込み年度を伺う。
- ② 圃場整備完了後の、作業効率の向上や農地利用の改善について、の効果を伺う。
- ③ 現れる効果について、市はどのように評価されるか伺う。

(2) 営農体制について

- ① 農業法人を中心に共同作業が行われているが、オペレーターの高齢化や担い手不足が進行し、圃場整備によって作業効率が向上しても、担い手がいなければ農地の維持は出来ない。地域の営農組織・JA・行政などと連携し、担い手の育成についてどのような支援策を考えているか伺う。
- ② 機械共同利用体制整備についての支援策を伺う。

(3) 担い手確保と新しい働き方への転換について

- ① 高齢化が進み、後継者不足の農家が増えており、整備された農地を将来に引き継ぐためには、若手・移住者・地域外の人材を含めた、新しい担い手の構築が必要だ。新規就農者への支援、研修体制の整備、空き農地のマッチングなど、実効性のある仕組みが必要と感じるが、担い手確保への新たな仕組みについて考えを伺う。

② 農業は単なる生産活動ではないと感じるが、農業の位置付けについての考えを伺う。

③ 新しい形の農業への参加を促す方策について伺う。

(4) 圃場整備後を見据えた持続的な農業モデルについて

① 圃場整備はゴールではなく、新しい農業の出発点として捉えているが、圃場整備完了後の営農支援やフォローアップについての考えを伺う。

② 必要と考えられる中期的な支援策について伺う。

③ スマート農業機器や ICT 技術を導入し、弥栄地域をスマート農業モデル地区として位置付ける考えはないか伺う。

(5) 生産部会について

① 農産物の生産を支える生産部会の統合や再編が加速し、全国的には約 20 年前から 3 割超減ったと聞すが、市の状況を伺う。

② 産地の高齢化が急速に進む中、大規模な再編や統合で生産力やブランド力を強化しようとする動きも活発になっているが、市の考えを伺う。

③ 将来的な対策についての考えを伺う。

(6) 共同利用施設について

① 食料安保を支える共同利用施設の老朽化は深刻な問題である。施設の再編や集約化といった構造転換対策などが必要と感じるが、現在の状況を伺う。

② 将来的な対策についての考えを伺う。

2 ハンター育成について

① 相次ぐ熊被害を受け、ハンターの育成が注目されており、銃による熊の駆除は経験が必要とされている。狩猟者の育成や確保を早急に検討する必要があるが、市の考えを伺う。

② 猟友会の現状を伺う。

③ ガバメントハンターについて市の考えを伺う。

発言No.

3

受付No. 19

令和7年11月20日

10時42分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 11 番

氏名 足立 豪

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 保育事業について

我が国の人口減少は深刻さを増している中で、浜田市においては令和7年度4月～9月までの出生数が105人で、本年の7月には11人という驚くべき少なさである。今から10年前の2015年には出生数が407人であったが本年度は200人前後となり、さらに10年後には年間の出生数が100人を割り込み異常な状況が想像できる。

市長は、所信表明において「今後の浜田市に大切なことは、人が減っても持続できる地域の姿を描くことであり、現実を変えていく最大の鍵は“人を育てること”」と決意を述べられている。しかし、急激で止まらない人口減少と少子化は浜田市だけでなく石見地域・社会構造の崩壊、すなわち地元経済の崩壊、地域所得の減少、医療や介護保険制度の行き詰まり、教育の劣化、さらには婚姻や子育てを求めている脱出的な転出増加で、県西部の地域社会・地域経済へ致命的な影響を誘因するものである。

このように社会そのものの構造が大きく変化している今、その中で子育て環境を充実させることが「人を育てる」に他ならないと確信しており、預ける保護者も安心してこの地域で働くことができる。急激な人口減少と少子化の中で、“保育園”ならびに“こども園”の果たす役割は大変重要であり、浜田市の子育て環境について伺う。

(1) 保育園並びにこども園について

①現状について

令和4年3月議会、並びに令和5年3月議会にも同様の質問をしているが、現在の状況を伺う。

②保育士の配置基準について

令和4年3月議会並びに令和5年3月議会でも0歳児の保育士配置基準について質問を行い、安心して預けられる保育の充実のためにも基準以上の配置について答弁を求めた。その後の進捗状況を伺う。

③0歳児に対する保育士の配置基準を保育士1人に対して3人から1人に対して2人にした場合の浜田市独自の財政負担を伺う。

(2) 保育料無償化について

①現状について

第3子から保育料無償化に取り組んでいるが、5年間の財政負担も含めた推移を伺う。

②第1子から無償化にした時の浜田市の財政負担を伺う。

2 在宅生活の尊厳を守る「訪問入浴サービス」の持続的提供と活用促進について

過疎地域である浜田市の高齢化率は38.86%（令和7年10月末）に上昇し、全国的に非常に高い水準である。

高齢化というのは、7%を超えると高齢化社会、14%を超えると高齢社会、21%を超えると超高齢社会といわれている。フランスでは高齢社会になるまでに114年かかっているが、介護保険制度を世界で初めて導入したドイツは42年で高齢社会(14%)に突入しており、我が国は7%から14%になるまでに24年という、ドイツの半分の期間で達成してしまっており、当時これは人類史上最短の記録である。（後に韓国が抜く）

ちなみに、現在日本の高齢化率は21%をはるかに超えた約29.3%で前人未到高齢社会になっている。浜田市ではそれを遥かに上回る高齢化率38.86%であり、高齢化率40%や50%の世界が目の前に迫っている。

このような中で、高齢化・少子化・過疎化が進む浜田市においては、高齢者の尊厳を守り、可能な限り住み慣れた地域で人生の最期まで暮らし続けることができる体制づくりが、これまで以上に重要となっている。

高齢化が進み「地域包括ケアシステム」の“深化”が求められる中、最期まで自宅で暮らしたいと願う市民にとって、入浴は単なる衛生保持だけでなく、精神的な安らぎやQOL（生活の質）の維持に不可欠でもある。

現状、浜田市においては地域包括支援センターを浜田市社会福祉協議会に委託をされているが、地域包括ケアシステムの現状と在宅サービスおよび課題と将来像について伺う。

(1) 地域包括ケアシステムの理念について

地域包括支援センターを浜田市社会福祉協議会に委託され、地域の高齢者の生活を支える“玄関口”として機能させていることを踏まえ、次のとおり伺う。

- ①地域包括ケアシステムの現状について
- ②地域包括ケアシステムの評価について
- ③地域包括ケアシステムの課題について
- ④地域包括ケアシステムの将来像について

(2) 在宅生活の尊厳を守る「訪問入浴サービス」の持続的提供と活用促進について

訪問入浴サービスは、在宅で暮らす重度の高齢者や障害のある方にとって、時に“最後のライフライン”となる極めて重要なサービスである。しかし、人材不足や採算性の悪化などにより、浜田市においては独自の支援策を講じている。

高齢化がさらに進む浜田市において、訪問入浴サービスが途絶えることは、在宅生活の継続可能性そのものを揺るがしかねない問題でもあるため、次のとおり伺う。

- ①浜田市の過去5年間の訪問入浴介護サービスの利用者推移について
- ②益田市・江津市の訪問入浴介護サービスの利用者推移について
- ③介護度が重度化する中で、潜在的なニーズについて
- ④浜田市独自の支援策を講じたことによる新規相談件数と実利用者について
- ⑤サービス継続に対する浜田市の危機感について

発言No. 4

受付No. 13

令和 7 年 11 月 20 日
9 時 17 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 5 番

氏名 花田 香

答弁を求める者
(○をつける)

☒市長 ☒教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 子どもの権利の保障について

浜田市では、子どもが自分の意見を安心して言える場が十分に確保されているとは言い難い状況にある。

国においては「こども基本法」が施行され、地方自治体においても子どもの意見を尊重する仕組みづくりが求められている。

(1) 子どもの権利条例の考え方について

全国的に見ると、先駆けて条例を制定しているところや子ども会議が実現している地方自治体もいくつか見受けられる。浜田市でも、市長の所信表明に子どもたちの声が社会に届けられるよう条例の制定に取り組むとあった。

①浜田市では、子どもの権利を保障するための条例制定の必要性をどのように認識しているのか伺う。

②浜田市における条例の土台には、子どもの権利条約の「四つの原則」があると考えるが、こういった内容の「四つの原則」か伺う。

③このうち浜田市として「子どもの最善の利益」についてどう定義しているのか伺う。

④現行の相談体制や支援体制の中で、子どもの権利が十分に守られていないと感じる課題はどこにあるのか伺う。

(2) 子どもの権利条例の制定について

子どもの権利条例を制定するには、子どもの参画は不可欠である。子ども自身が意見を述べ、浜田市の政策形成に参画できる仕組みについて伺う。

①子どもの参画をどのように考えているのか伺う。

②具体的な参画方法について伺う。

(3) 子どもの権利条例と不登校の関係性について

子どもの権利が侵害されている場面の一つとして、不登校やいじめ、虐待、貧困等の問題が挙げられる中で、不登校について伺う。

①不登校について、現在の浜田市の状況を伺う。

②不登校の子どもたちの居場所について伺う。

③子どもたちの居場所になりうる、校内フリースクールと、コミュニティスクールをどのように関連付けていく考えがあるのか伺う。

一般質問発言通告書

議席番号 22 番

氏名 川神 裕司

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長

☒ 教育長

☐ 監査委員 ☐ 選挙管理委員会委員長

☐ 農業委員会会長 ☐ 固定資産評価審査委員会委員長 ☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 加速する人口減少に対応できる市政運営について

(1) 人口減少を前提とした各種計画立案の推進について

- ① 現在総務省は人口減少を止めるのは厳しいとして、人口減少を大前提として地方自治体に計画策定を行うことを推奨している。当市の今後の計画策定は将来人口推計を下回る数値を基本に行う必要があると考えるが、市長の所見を問う。

(2) 都市機能集約を基本とするコンパクトシティに対する見解について

- ①人口減少という厳しい社会情勢の中で、行政コストを最適化しつつ住民サービスを守るため「コンパクトシティ」という政策を導入している自治体が増加している。自治体面積が広大な当市にとり、有効な戦略一つと考えるが市長の所見を問う。

(3) DX を駆使したスマートシティ構想に基づく市政運営について

- ①スマートシティ構想はデジタル技術の活用で効率的で快適な地域づくりを目指す戦略。国においても人口減少・高齢化・財政難を背景に推奨しているが、市長の所見を問う。
- ②分野横断でデータを接続する「都市 OS(データ連携基盤)」の整備の必要性について認識を問う。

(4) 円滑な行政運営を行うための行政組織の活性化について

- ①近年職員の離職率が高い状況が続いている。理由として以前は「職員のモチベーションの低下」も要因の一つと答弁されている。市役所は市民サービスの最後の砦。その職員の意識が低下したままでは市民サービスの質やスピードに直結する重大な問題。職員のモチベーションを上げ、さらに職場を明るくする取り組みを推進すべきだが所見を問う。
- ②行政組織がアクティブに機能するためには、職員の業務量の適正化も重要な要素となるのは明白である。そのための業務棚卸は当然実施されていると考えるが事務の簡素化・効率化はどの程度進んでいるか問う。
- ③職員数が減少傾向の中、その業務処理能力をサポートする仕組みとして自治体 DX の推進が提唱されている。DX 推進でどの程度の業務量をカバーできているか問う。

2. 2030 年問題対応のための戦略について

2030 年までに高齢者人口増加、労働者人口大幅減少、空き家増加等複合的な変化が同時に進行。俗に言う「2030 年問題」であるが、今回は 2 点に関して具体的に市長の見解を問う。

(1) 医療・介護の逼迫に対する認識と対応について

- ① 現在医療・介護人材不足は深刻であり、地域医療の拡充の障壁となっている。今後益々医師・看護師の偏在や介護需要の急増が叫ばれる中、2030 年前後、市の医療・介護人材の供給体制はどの程度の不足が予想されるのか問う。
- ② 医療・福祉における人材確保・育成は喫緊の課題である。医師会との連携も極めて重要であるが、今まで提案している対象範囲の拡大した独自の奨学金制度の導入も有効と考える。市長の考える人材育成・確保戦略の具体的方向性について問う。
- ③ 今後はさらに介護関係者不足が発生し、国は一層在宅へ移行させようとしている。地域福祉の充実のため「地域包括ケアシステム」を強化させる必要がある。市長は 2030 年までにこのシステムの再構築にどう取り組むのか問う。

(2) 税収の本格減少と行財政改革について

2030 年以降市税が本格減少し、扶助費が上昇する「逆転タイミング」が起こる可能性がある。自主財源である市税額を社会保障関係費である扶助費が上回る現象である。

- ① 令和 6 年度決算では市税－扶助費が約 20 億程度あり逆転まで余裕はあるが、市税は人口減少・税源の偏りにより大幅減の可能性、扶助費は高齢化・介護支出・生活保護・等、上昇圧力が高い。2030 年に向けた市税収入・扶助費の収支見込について問う。
- ② 市長は行財政改革に積極的に取り組む姿勢が所信表明に表れているが、行財政改革プランに「2030 年問題」をどう位置付けているか見解を問う。

3. 浜田市における財産である石見神楽振興戦略について

(1) 石見神楽振興における重点施策について

- ① 本年は日本遺産に認定されている、浜田市の貴重な財産である石見神楽が関西万博という世界が注目する舞台で大成功を収めた記念すべき年となった。あらためて、石見神楽の可能性と「誇り」を感じ「まちづくり」の核としての役割を再認識した。市長が考える「石見神楽」振興のために実施すべき重点施策を問う。

(2) 「石見神楽」及び石見神楽関連ものづくりに対する早期文化財指定について

- ① 関西万博を契機にさらに世界的にも石見神楽の評価が高まっている。しかしながら、石見神楽自体に対しても、それを支える「ものづくり」に対しても浜田市文化財指定がいまだに行われていないことは残念である。新市長のもと、早急な実現が必要と考えるが市長、教育長の所見をあらためて問う。

(3) 石見神楽保存・伝承拠点に関する方向性について

- ① 石見神楽伝承施設に関しては、前市長において提案、議論されたところである。三桜酒造跡地をはじめ、複数候補地の提案、計画の提示がなされたが最終的に議論が十分行われず結論を見ていない。現在「石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会」で拠点の在り方が議論されている。市長の基本的な方向性に関して問う。

一般質問発言通告書

議席番号 9 番 氏名 大谷 学

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 市長の市政運営への基本的な考え方について

(1) 最優先事項について

- ① 市民の何を最優先に守るべきと考えているのか、その認識を伺う。
- ② 最優先に取り組むべき事項の具体的な方策について、その認識を伺う。

(2) UI ターンにつながるシビックプライドの醸成について

- ① シビックプライドの醸成の必要性について、その認識を伺う。
- ② 市の内外に誇るべき事項は何か、その認識を伺う。

(3) 図書館機能や美術館機能の向上について

- ① 市長の所信表明の中で、この2つの施設の「機能の更なる向上に取り組む」と表明されている。手本にしたいと考える図書館あるいは美術館はあるのか伺う。
- ② 機能の向上のためにはマンパワーの充実は欠かせないと思うが、司書もしくは学芸員の増員等が必要と考えているのか、その認識を伺う。

(4) 学校の自由裁量経費の増額について

- ① 市長は市議の頃の個人一般質問において、学校の自由裁量経費を増やし学校の主体的な活動を増やす必要性を前市長に促していたと記憶する。市長となってこのような措置をされる予定か考えを伺う。

2. 災害に強い安心安全なまちづくりを目指した取組について

(1) 自走式トイレカーの導入の再提案について

- ① 令和7年7月に自走式トイレカー導入の先進地である兵庫県南あわじ市に出向き、その有用性について視察した。能登半島地震における珠洲市への貸出に見られるように、その有用性は実証され2台目を購入予定と聞いた。現在は、大阪府交野市や大分県中津市など9市で17台のトイレカーと災害時における相互派遣の連携協定を締結しているとのことである。浜田市においても、トイレカーを導入し連携に加わることによって、最大18台のトイレカーを運用できる効果を生むことになり、市民の安心安全に対する費用対効果は極めて大きく、導入の検討をしてみる価値はあると思うが、その認識を伺う。

発言No.

7

受付No. 12

令和7年11月20日

8時35分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 21 番 氏名 西田清久

答弁を求める者 ☐ 市長 ☐ 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 持続可能な中山間地域について

- ① 令和3年から5年間で10億円という「中山間地域振興枠」の取組については、当面継続実施されるとのことだが、その考え方について問う。
- ② 中山間地域における課題解決には、地域支所単位での一定の裁量を持つことも即効性と責任ある人材育成という観点から重要だと思うが、「地域枠予算」の考えはないか問う。
- ③ 農業従事者の高齢化が進む中、果樹等の栽培従事者が居られなくなった場合、新たな就農後継者との積極的なマッチングシステムの可能性について問う。

2 浜田に住みたい・住み続けられる環境整備について

- ① 産業振興と新たな働き方による地域力向上については、これまで、はまだ産業振興機構等で取り組んでこられたが、新たな施策について所見を問う。
- ② 新たな雇用の場や創業者を増やすには、空き家や空き店舗などの利活用も有効な手段だと思うが、所見を問う。

3 「社会教育をまちづくりの土台に」について

- ① 人口減少社会だからこそ、市民一人ひとりの生活の質や心の豊かさは求められていると思う。「人を育てること」は最も重要なテーマであり、未来の浜田の全ての分野に必要な不可欠なものである。様々なことを鑑み、「人材育成都市宣言」をされたらどうか所見を問う。

発言No.

8

受付No. 14

令和7年11月20日

9時29分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 18 番

氏名 芦谷 英夫

答弁を求める者

(○をつける)

☒市長 ☒教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、所信表明について

(1) 協働のまちづくりの推進について

- ①社会教育をまちづくりの土台とすると述べ、地域社会に関心を持ってもらうこと、社会教育の手法による人づくりを行う、まちづくりセンターが主体となる、担当課がサポートする、とあるが、どのようなことを考えていて、これまでとはどう変わるのか。
- ②「市民の皆さんと対話する仕組みを設ける」としているが、どのような仕組みを構想しているのか。
- ③自主防災組織の組織率を高めるとしているが、地区社会福祉協議会、消防団、まちづくり推進委員会など、どう地域が連携し、地域が一体となった自主防災組織強化の具体的な方策は何か。

(2) 浜田駅周辺エリアのグランドデザインについて

- ①浜田駅周辺エリアのグランドデザインの策定とあるが、これまで行われた石見神楽伝承内容検討専門委員会報告書、現在、議論されている基本構想検討委員会の結果をどう扱い、具体化するのか。

(3) 高齢者福祉の推進について

- ①住まい、医療、介護、予防、生活支援を一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築を目指すとしているが、体制整備はどこまで進み、残された課題は具体的にどのようなものがあるのか。

2、人口減少を食い止める政策について

- ①人口の減少数、減少率など、島根県は中国地方でどのような状況や位置にあり、浜田市は県内ではどのような状況や位置にあるのか。
- ②浜田市で地方創生を進めてきたが、人口減少を食い止める、出生数が増える、UIターンが進んだ、雇用が増えたなど、地方創生に叶う成果が上がったものはどのような事例があるのか。

- ③島根あさひ社会復帰促進センター、三隅火力発電所など市内にある企業について、単身赴任者の状況など実情を調査し、家族ともども浜田市に住んでもらうことを、会社に対し働きかけてはどうかと質問したが、その後の状況はどうなったのか。

3、観光入込客増に向けた施策について

- ①県においてDMO観光地域づくり法人を設立されたが、具体的にどのような事業を行い成果が上がったのか。
- ②令和8年3月には山陰自動車道が益田まで開通するが、これにあわせ観光入込客を増加させる具体的な計画や施策は立てているのか。
- ③ゆうひパーク浜田計画案の見直しはどう進めていて、今後の計画はどのようなになっているのか。

4、市民生活の状況について

- ①物価高の中、生活保護の相談、生活困窮者自立支援制度、あんしん生活相談窓口の相談件数などから、市民生活の状況はどのようなになっているのか。
- ②令和7年度物価高騰対策として様々事業化され予算化されているが、全体的な執行状況、関係先からの声などから事業をどう評価しているのか。
- ③ガソリン価格が高いがことについて、市としてその背景や要因などを調査し、関係先に、他市並みに引き下げをこれまで求めてきたのか。

—以上—

発言No.

9

受付No. 7

令和7年11月19日

10時12分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 6 番

氏名 戸津川 美二

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長

☒ 教育長

☐ 監査委員

☐ 選挙管理委員会委員長

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 市への政策に関わる提言について

(1) 民間団体等からの提言について

- ① 連合島根西部地域協議会浜田地区会議から定期的に提言をされているが、どのように政策に反映されているのか伺う。
- ② その他にも政策提言されている事例があるのか伺う。

(2) 連合島根浜田地区会議からの政策提言にある現状と課題について

- ① 雇用労働政策に関する現状と課題について認識を伺う。
- ② 子育て世代の現状と課題について認識を伺う。
- ③ 高齢者の福祉・医療に関する現状と課題について認識を伺う。
- ④ 持続可能な地域づくりに関わる現状と課題について認識を伺う。

2 島根県立大学について

(1) 浜田市との共同研究事業について

- ① 政策に反映できた事業はどのようなものがあるのか伺う。
- ② 地域とどのように関わることができたのか伺う。

(2) 県立大学生の地元就職について

- ① 現在の学部ごとの県内外の学生数・割合について伺う。
- ② 県内への就職状況について伺う。
- ③ インターンシップ制度の状況について伺う。
- ④ 学生への支援について伺う。

発言No. 10

受付No. 18

令和7年11月20日

10時18分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 7番

氏名 村木勝也

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 新市まちづくり計画(平成17年9月)と今後の浜田市について

(1) 新市まちづくり計画の概要について

- ① 新市まちづくり計画は浜田市においてどのような位置付けであるのか伺う。
- ② この計画の期間は、更新され、令和7年度までとなっているが、今までどのような検証がされてきたのか伺う。

(2) 【地域づくり】における「地域の特性を活かしたまちづくりの連携」について

- ① 地域振興計画の策定率を伺う。
- ② 地域振興計画が、どのように具現化されているのか伺う。
- ③ 地域振興計画が、行政の中でどのように役立てられているのか伺う。
- ④ 今後の地域コミュニティにおいて、この地域計画書をどのように活かすのか伺う。

(3) 【地域づくり】における「大学等高等教育機関と連携した地域づくり」について

- ① この項目の主要施策の2本柱である「島根県立大学等との連携の推進」と「リハビリテーションカレッジ島根等との連携の推進」の成果について伺う。
- ② 今後における2本柱の内、島根県立大学については、所信表明で述べられている。「リハビリテーションカレッジ島根」については、どのような考えなのか伺う。

(4) 【人づくり】における「生涯学習の充実」について

- ① この計画において、「生涯学習の充実」については、どのようにされてきたのか伺う。
- ② 浜田市まちづくりセンター条例第3条の規定から、まちづくりセンターは市長が管理する公民館であることで間違いはないか伺う。
- ③ 今後の社会教育施設のあり方を伺う。
- ④ 「生涯学習都市宣言」の考えはないか伺う。

(5) 今後の「新市まちづくり計画」について

- ① 令和 8 年度以降の更新はあるのか伺う。
- ② 「青い海・緑の大地 人が輝き文化のかおるまち」は、新市まちづくり計画の理念です。今後の対応を伺う。

発言No.

11

受付No. 21

令和7年11月20日

10時53分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 13 番

氏名 柳楽 真智子

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 産後ケアについて

- ① 産後ケア事業が行われているが、利用者の推移について伺う。
- ② 産後ケア事業の内、乳房ケアの利用状況を伺う。
- ③ 断乳後も乳房が張って大変なので、是非支援の期間を延長してほしいとの要望があるが、延長することはできないか伺う。

2. 子どもの権利について

(1) 子どもの権利を守る対策について

人間は生まれながらに、生きるための最低限の生活を保障される生存権。国家から干渉されず、自由に生きられる自由権。不当な差別を受けることのない平等権。健康で文化的な生活を営むための社会権。政治に参加する参加権など、人がその人らしく生きるために保障される権利を持っています。また、子どもの権利として国連の「子どもの権利条約」には、子どもの生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利が謳われています。

- ① 子どもの権利について子ども自身が知る権利があると考えますが、伝える場は設けられているのか伺う。
- ② 虐待や貧困、そのほかにも様々な状況により子どもの「生きる権利」が脅かされる状況があるが、浜田市の現状を伺う。
- ③ 虐待を防ぐための対策を伺う。
- ④ 貧困を防ぐための対策を伺う。
- ⑤ 教育や学び、文化や自己表現の機会の不足、遊びや休息の不足。また発達に応じた支援が受けられないなどの課題がある。浜田市において子どもの「育つ権利」は守られているのか伺う。

- ⑥ 発達の遅れについては早期発見と支援への繋ぎが重要と考える。専門医の不足という課題がある中で、どのような対応が行われているのか伺う。
 - ⑦ 子どもの「守られる権利」は浜田市において保たれているか現状を伺う。
 - ⑧ 防災・防犯メールで子どもに対する声掛けや撮影事案の報告を受けることがある。地域の見守りも必要と感じるが、市民への協力の呼びかけ等も行われているか伺う。
 - ⑨ 親の生きづらさが子どもに影響することも心配される。親子併せての支援が大切であり、そこには学校との連携が必要と考えるが所見を伺う。
 - ⑩ 子どもが発言する機会の確保や意見反映など、子どもの「参加する権利」は守られているか、浜田市の現状を伺う。
 - ⑪ 特に子どもに関わる事柄は、子どもの意見を聴き、その意見が反映されることが大切であり、ふるさとへの信頼や愛着に繋がるとも聞く。子どもに権利を与えたら大変なことになるという大人もいるが、全ての人に等しく生まれながらに権利が保障されていることを大人も理解することが求められる。理解の促進をどのように進めるのか伺う。
- (2) 子どもの権利条例策定について
- ① 子どもの権利を守るために子どもの権利条例は必要と考える。今後条例の制定を行う考えがあるか伺う。
 - ② 子どもの権利条例を制定する場合には、行政だけでなく関係団体や専門家、子ども自身、保護者などの意見を反映することが大事と考えるが所見を伺う。

発言No.

12

受付No. 1

令和 7 年 11 月 10 日

9 時 54 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 12 番

氏名 川 上 幾 雄

答弁を求める者

(○をつける)

市長 ☒ 教育長 ☒ 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 地域の現状について

三浦新市長が、今回の選挙戦で市内全域を歩かれており、以下について質問する。

(1) 住民の声や市内の現状受止めについて

- ① 市民の声をどのように受け止められたかを問う。
- ② 市内全域を俯瞰した実感を問う。

2 浜田の現状認識について

(1) 空き家問題と地域維持について

- ① 空き家対策をどう位置付けているのかを問う。
- ② 山間部や沿岸部での空き家への対応策を問う。

(2) 市道整備と生活インフラについて

- ① 市道の維持・補修をどのように優先づけるのかを問う。
- ② 地域要望と予算配分の透明性をどう確保するのかを問う。

(3) 公共施設の老朽化について

- ① 公共施設マネジメントの見直しを行うのかを問う。
- ② 施設の再編・統合を含めた施策を示されるのかを問う。

(4) 農林水産業について

- ① 水産業の現状をどのように受け止めているのかを問う。
- ② 農・畜産業の現状をどのように受け止めているのかを問う。
- ③ 林業の現状をどのように受け止めているのかを問う。

3 教育と若者定着について

(1) 教育の魅力化について

- ① 教育魅力化施策を検討されるのかを問う。

(2) 教育環境と若者定着について

- ①教育を通じた若者の地域定住策について問う。

4 地域経済と産業振興について

前市政においては大型施設を設置又は購入されており、以下について質問する。

(1) 高度衛生管理型荷さばき所について

- ①現在の稼働率・採算性をどのように捉えているのかを問う。
- ②今後の利用拡大策をどのように描いているのかを問う。
- ③水産業を稼げる産業に変えるための具体策を問う。

(2) 道の駅ゆうひパーク浜田について

- ①新たな「道の駅」として期待する機能は何かを問う。
- ②地元事業者や若者が参画できる運営体制の検討はされないのか問う。

5 市政運営の透明性と信頼回復について

市民の最大の関心事は「市政が公正であるかどうか」です

(1) 不祥事の説明責任について

- ①「有ったとも無かったとも言えない」事案についての対応を問う。

(2) 随意契約・指定管理・補助金交付について

- ①随意契約・指定管理・補助金交付に関する情報の公開拡大の検討を問う。
- ②利害関係者との関係整理と倫理規範の明確化を問う。

6 新市長としての市民への思いについて

(1) 将来像と決意について

- ①新市長として市民へ示される将来像を問う。
- ②市民に伝えたい決意について問う。

発言No.

13

受付No.

15

令和7年11月20日

9時57分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 16 番

氏名 笹田 卓

答弁を求める者

☐ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員

☐ 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

1 三浦新市長の所信表明に関する今後の施策について

(1)「こどもにやさしい環境をつくる」について

①「こどもたちの声が社会へ届けられるよう、学校や地域で意見表明や参加の機会を保障する条例の制定に取り組む」と述べられたが、条例の内容、スケジュールなど、条例制定に向けた計画について伺う。

②「浜田市こども計画」の基本理念である「こどもや若者が自分らしく生きるまちへ」の実現に向け、どのような具体的な施策に取り組むのか伺う。

(2)「社会教育をまちづくりの土台に」について

①本庁・各支所担当課職員やまちづくりセンター職員などを中心に、各地域の課題解決や地区まちづくり推進委員会の活動・設立を支援していくとあるが、その具体策について伺う。

②学校や地域、市民ボランティアと連携し、図書館機能や美術館機能の更なる向上を図るとあるが、具体策を伺う。

③浜田郷土資料館は建築後60年以上が経過し老朽化が著しいことから、建替え整備に取り組むとある。施設内容、スケジュールなど、建替えに向けた計画を伺う。

(3)「メリハリある施設整備と民間協働」について

①浜田市の玄関口である浜田駅周辺について、関係者や市民と対話しながら早期にグランドデザインを策定するとあるが、策定に向けた計画を伺う。

②三桜酒造跡地の位置付け及び利活用について検討するとあるが、現時点での市長の考えを伺う。

(4)「産業と働き方をアップデート」について

① 農業については、農畜産物の生産拡大による農業産出額の更なる増加に努めるとあるが、その具体策を伺う。

② 林業については、「木を伐って、使って、植えて、育てる」という持続可能な循環型林業を目指すとあるが、具体策を伺う。

③ 水産業については、浜田漁港の水揚量の増大に向け、地元漁船の存続支援や外来船の入港促進に取り組むとあるが、具体策を伺う。

(5)「デジタルで暮らしと経済を前進」について

①地域全体でのDXについて、市長が現時点で考えている内容を伺う。

②高齢者やデジタルサービスが苦手な方への配慮を含め、「誰ひとり取り残さない」やさしいデジタルの実現に向けた具体策を伺う。

③「(仮称) 浜田市 DX 推進計画」を策定するとあるが、その内容、スケジュールなど策定に向けた計画を伺う。

(6)「コミュニティの力で地域を再生」について

①地域に関わる学生や研究者が増えており、研究活動への支援や共同研究・インターン等を通じ、双方向の関係を構築して若者の学びと地域定着を促すとあるが、その具体策を伺う。

②まちづくり振興基金を活用した「中山間地域振興枠」について、予算額、財源、期間など、今後の実施に向けた計画を伺う。

(7)「戦略的な生活基盤の維持」について

①地域防災力の向上に向け、自主防災組織の組織率を高め、その育成に努めるとあるが、具体策を伺う。

②公共交通について、市民・交通事業者・行政が一体となり、新技術の活用なども含め持続可能な公共交通体系の構築を図るとあるが、具体策を伺う。

③「地域包括ケアシステム」の構築に向け、医療・介護連携の推進、介護予防・認知症施策の推進、権利擁護支援体制の強化などの取組について伺う。

④地域医療について、地域ニーズと人口構造の変化に対応し、機能分化と相互連携による浜田医療圏の医療体制を構築するとあるが、市長の考えを伺う。

⑤浜田処理区下水道整備事業は令和 8 年度中の供用開始に向けて工事を進めるとともに接続支援を検討するとあるが、人口減少が進む中で今後も下水道整備を進めるのか、浄化槽等でまちづくりを行うのか、市長の考えを伺う。

(8) 財政運営について

① 個人版ふるさと寄附の寄附額増加に向けた取組、及び企業版ふるさと納税において企業向けの情報発信を強化しトップセールスを行うとあるが、増額に向けた具体策を伺う。

以上

一般質問発言通告書

議席番号 2 番

氏名 今田 実延

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 鳥獣被害対策について

(1) 捕獲及び処理体制について

- ① 現在、捕獲された鳥獣の処理はどのように行われているかの現状を伺う。
- ② 処理施設の受け入れ体制での課題について伺う。
- ③ 今後の衛生的かつ効率的な処理体制の整備について伺う。

(2) 捕獲体制の強化について

- ① 鳥獣被害防止に取り組む猟友会の高齢化が進んでおり、後継者の確保や若手の参入促進のための支援策について伺う。
- ② 報奨金や機材支援、効率的な処理体制について、現場の実情把握及び見直しの検討について伺う。

(3) ジビエ活用の推進について

- ① 浜田市内または広域連携によるジビエ処理施設・流通の整備について伺う。

2 浜田市地域公共交通計画について

(1) 交通現状と課題認識について

- ① 中山間地域における現行の市生活路線バス・市予約型乗合タクシー・民間タクシーの運行状況・利用状況の分析について伺う。

(2) 将来の交通政策の方向性について

- ① 市街地・沿岸部・中山間地域で交通ニーズや人口構成に差があるが、地域ごとのきめ細かな実施プラン(例えば便数の増便や運賃補助の増額)について伺う。

3 浜田市ふるさと同窓会支援事業補助金について

(1) 利用実績及び効果検証について

- ① 制度開始以降の申請件数・交付件数・交付総額・参加人数の平均及び年齢構成を伺う。
- ② 若者の市内回帰や市への関心向上について具体的成果を伺う。

発言No.

15

受付No. 2

令和 7 年 11 月 14 日
14 時 52 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 4 番

氏名 遠藤祐之

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長

教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 保育士の処遇改善について

(1) 浜田市の保育士の総数について

- ① 浜田市の保育士の総数を伺う。
- ② 浜田市長は、将来的に保育士の数と質の確保について何をされるのか考えを伺う。
- ③ 保育士の処遇改善について、市長は現時点で具体的な考えがあれば伺う。
- ④ 保育士の総数と併せ処遇改善について具体的な考えがあるとすれば、おおよその金額が算出されると思うが、財源はどこから補うのか考えを伺う。

2 市の財政力指数について

(1) 浜田市の財政力指数の向上について

- ① 浜田市の財政力指数は県内でどのようになっているのか現状を伺う。
- ② 浜田市の財政力指数は決して高い基準にはないと考えられるが、具体的にどのような政策を実行するのか考えを伺う。
- ③ どういった計画でこの課題を解決するおつもりなのか考えを伺う。
- ④ また、その期間や、目処はいつまでと考えておられるのか考えを伺う。

3 市役所業務のDX化について

(1) 市役所業務の簡素化、簡略化について

- ① 現在、市役所業務における紙による資料に係る費用の総額を伺う。
- ② 今の時代、紙ベースではなくデジタルを活用し、市民の来所の手間を省いていく必要があると考えるが、市長のご意見を伺う。
- ③ 本格的なDX化はいつ頃を目処に考えておられるのか伺う。

発言No.

16

受付No. 9

令和7年11月19日

14時2分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 1 番

氏名 西田 一平

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長 ☐ 教育長 ☐ 監査委員 ☐ 選挙管理委員会委員長

☐ 農業委員会会長 ☐ 固定資産評価審査委員会委員長 ☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 美又温泉新施設・飲食機能強化について

(1) 飲食店誘致の現状と課題について

- ① 美又温泉国民保養センター再整備基本計画における飲食店等の商業施設用地の民間事業者への公募貸付方式について、応募状況や事業者の関心度など、現在の進捗状況を伺う。
- ② 2026年12月の外湯施設オープン時に、日本一の美肌の湯に相応しい飲食店が整備される見通しについて伺う。

(2) 観光拠点としての飲食機能の重要性について

- ① 基本計画で掲げられた「温泉、食、遊び、コスメ、癒し」の5つの美肌コンテンツにおいて、食が果たす役割について市の認識を伺う。
- ② 2028年度の目標利用者7万800人を達成するため、外湯施設と飲食店の相乗効果をどのように創出していく方針か伺う。

(3) 既存の商業支援制度の課題について

- ① 現行の浜田市商業支援事業補助金(最大200万円、補助率1/2)が、美又温泉地区での飲食店開業において十分な誘致効果を発揮できているか、市の評価を伺う。
- ② 温泉地特有の課題(初期投資の高さ、季節変動リスク、物流コスト、高品質要求等)に対して、既存制度で対応可能か見解を伺う。

(4) 美又温泉地区特化型支援制度の創設について

- ① 美又温泉地区に限定した飲食店開業支援補助金(補助上限500万円、補助率2/3、地域食材活用等の加算制度、家賃補助等)の創設について、市の見解を伺う。
- ② 質の高い飲食事業者を誘致し、外湯施設との相乗効果で美又温泉全体の魅力向上を図るための具体的な支援策について伺う。

(5) 予算措置と財源確保について

- ① 美又温泉地区特化型の飲食店支援制度について、令和8年度予算での検討の可能性を伺う。
- ② 地方創生推進交付金、島根県的美肌観光推進事業との連携、ふるさと納税の活用など、想定される財源確保策について伺う。

(6) 食による観光戦略の総合的展開について

- ① 美又温泉における「食べて、浸かって、美しくなる」美肌観光の聖地としてのブランド構築について、市長の決意を伺う。
- ② 補助金制度と併せた総合的な施策(フードフェスティバル、料理人研修、美肌メニューコンテスト、食と温泉の周遊パッケージ開発等)の実施可能性について伺う。

2 観光行政の改革について

(1) 広島県における観光推進体制の改革事例について

- ① 広島県が令和2年4月に実施した観光課と観光連盟の一元化、実務執行の観光連盟(HIT)への集約について、市長の評価を伺う。
- ② 広島県の改革による成果(業務効率化、データ分析の内製化、マーケティング機能強化、民間的経営手法の導入等)について、本市が学ぶべき点をどう捉えているか伺う。

(2) 観光行政の現状と課題認識について

- ① 現在の観光交流課と浜田市観光協会の役割分担について、どのように整理されているか伺う。
- ② 令和2年度財政援助団体監査結果で指摘された課題(経理規定の見直し、組織の充実、市補助金への高い依存度約65%、補助金交付要綱と実態の乖離等)について、市としての現状認識と改善策を伺う。
- ③ 今後、観光交流課と観光協会の関係をどのように発展させていくべきと考えるか、市の方針を伺う。

(3) 観光交流課業務の観光協会への移管可能性について

- ① 観光交流課が担っている業務のうち、観光協会に移管することで、より効率的・効果的に実施できる業務(観光プロモーション、イベント企画実施、観光情報発信、インバウンド対応等)はあると考えるか、見解を伺う。
- ② 業務移管による効果(行政改革の推進、観光振興の質的向上、財政の効率化)について、市の認識を伺う。
- ③ 段階的な業務移管(第1段階:観光協会の組織強化支援、第2段階:本格移管とDMO登録検討、第3段階:データドリブンなマーケティング実装)について、検討する考えがあるか伺う。

(4) 段階的改革に向けた調査研究の実施について

- ① 観光行政改革に向けた調査研究(先進地視察、有識者による検討委員会の設置、パイロット事業の実施等)を実施する考えはあるか伺う。
- ② 調査研究のための予算措置について、市の見解を伺う。
- ③ 具体的な調査研究の開始時期と、次年度予算への反映について、市の方針を伺う。
- ④ 本市の観光資源を最大限活用し、「何度も訪れたくなる魅力的な観光地」として発展させるための観光行政改革について、市長のリーダーシップと決意を伺う。

発言No.

17

受付No.

3

令和

7年

11月

15日

8時

18分

受付

一般質問発言通告書

議席番号 10 番

氏名 沖田真治

答弁を求める者

(市長) 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 人口減少社会におけるインフラ管理の課題と方策について

(1) 市が維持管理する道路・橋梁について

- ① 市が維持管理する道路(舗装)と橋梁(橋)について、現在の総延長はどれだけのものか伺う。
- ② 令和6年度における維持管理の必要性が認められ改修が行われた道路(舗装)と橋梁(橋)の箇所数と延長はどれだけのものか伺う。
- ③ 令和6年度において地元要望や点検により修繕が必要とされた箇所への対応は、どの程度対応ができており、未対応は何力所あるのか伺う。

(2) 道路及び橋梁の維持管理費用について

- ① 令和6年度の道路と橋梁に関する維持管理費用の総額について伺う。
- ② 令和6年度の河川を含む草刈り作業報奨金の総額について伺う。
- ③ 令和6年度の立木伐採、河川を含む草刈り作業を業者へ委託した費用の総額について伺う。
- ④ 令和6年度から過去5年間ににおける維持管理費用の推移について伺う。
- ⑤ 今後も続く少子高齢化により従来通りの地域単位により維持管理が行われている道路沿い、河川周辺の草刈りが困難な地域が増大することが予想され現状の維持管理費では賄えない部分が発生することも予想される。今後の維持管理費用について市の考え方について伺う。

(3) 今後の維持管理の課題と方策について

- ① 全国的に不足している土木職員への浜田市の対応について伺う。

- ② 人口減少が進む中、多くが高度成長期に造られた道路や橋の維持管理を全て行っていくことは難しいという考え方が現実的である。利用度や必要性に応じた選択と集中と言った考え方に基づいた計画を立てたうえで、今後の生活インフラ管理を行っていく必要があると思うが、市としての考えを伺う。

2. 消防団員へ貸与される装備品について

- ① 浜田市消防として団員へ貸与している装備品と用途について伺う。
- ② 団員にとって最も必要とする活動服、アポロキャップの貸与が基本的に1着となっているが、夏場の活動時において洗い替えがない状況を改善するため、希望者に対し洗い替え用の貸与の必要性があるように思う。市としての考えを伺う。
- ③ 出初め式における団員の服装は制服、帽子、階級章となっている。式典なので制服であることは理解するが、県内の市町村を見ても出初め式は活動服で出勤している自治体もあることや式典の後に行われる一斉放水を行うことを考えれば、本市も出初め式の服装を見直すべきではないかと思うが、市の考えを伺う。

発言No.

19

受付No. 11

令和7年11月19日

16時22分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 3 番

氏名 岡山 令子

答弁を求める者

(○をつける)

☐ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員 ☐ 選挙管理委員会委員長

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 浜田市の情報発信のあり方について

(1) 浜田市全体の情報発信について

- ① 浜田市が行っている現行の情報発信について、今後、発信手法や内容のアップデートの状況について伺う。
- ② 具体的にどの部分を改善・強化しようとしているのか方向性を伺う。
- ③ 情報発信の効果検証（閲覧データ、反応率、ターゲット分析など）をどの程度行い、今後どのように改善に生かしていくのか伺う。

(2) まちづくりセンターの情報発信について

- ① まちづくりセンターの情報発信の現状について伺う。
- ② まちづくりセンターごとに独自のホームページが設けられていない理由を伺う。
- ③ 今後まちづくりセンターごとのホームページ作成が検討されているのかを伺う。

2 浜田市 DX 推進計画について

- ① 浜田市 DX 推進計画における地域通貨や市民ポイント制度の導入・検討の状況について伺う。
- ② 検討している場合、その目的・仕組み・想定される活用場面や導入スケジュールについて伺う。

- ③ 地域の経済循環、新たな市民参画の視点から、導入に向けた可能性や課題をどのように捉えているのか伺う。

3 島根県立大学との連携について

- ① 島根県立大学浜田キャンパスの学生が地域へ出向く際、また地域が学生を受け入れる際の注意点に関して、双方が共通理解を持つための取組や具体的な事例について伺う。
- ② 具体例に関して、その内容と成果について、また課題があればどのように整理・対応しているのか伺う。
- ③ 今後、地域連携活動をより安全かつ円滑に行うため、ガイドラインや研修等の整備の検討状況について伺う。

4 生涯スポーツの推進について

- ① 国スポ・全スポの実施競技種目以外のスポーツについて、生涯スポーツの推進対象としての検討状況について伺う。
- ② どのような種目や年代を想定し、地域コミュニティとの連携をどのように図るのか伺う。
- ③ 島根県での国スポ・全スポ開催後も、持続的にスポーツを通じた地域づくりに取り組むための体制・支援策について伺う。

発言No.

19

受付No. 6

令和7年11月18日

10時45分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 19番

氏名 佐々木 豊治

答弁を求める者

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 所信表明について

(1) 特に力を入れる施策について

① 特に力を入れていこうとされる施策について伺う。

(2) グランドデザイン策定について

① 浜田駅周辺については「エリアのグランドデザインを早期に策定し」とされているが、目指している策定の時期について伺う。

② グランドデザイン策定の効果について、具体的な考えを伺う。

③ 三桜酒造跡地活用についてはグランドデザイン策定のなかで検討するとのことだが、にぎわいの場づくりとして行われた先般の社会実験なども参考にされるのか伺う。

(3) 施設整備について

① 石見神楽の保存・伝承施設の取組についてはどのように進めていこうとされているのか、今時点の考えを伺う。

② 郷土資料館については久保田前市長が最後に示された「石見神楽保存・伝承施設、郷土資料館に関する検討データの報告」のなかで、郷土資料館の建替えも含め、整備場所として3案を示されていたが、ある程度それを視野に入れた検討になるのか、それとも独自の考えで進めてくのか伺う。

(4) 中山間地域の医療対策について

- ① 地域医療の取組について「医療資源に限られる中山間地域において、誰一人取り残すことなく医療を届けていく」との表現を、心強く思ったところだが、現時点での具体的な取組みの考えを伺う。

2. 再生可能エネルギー発電事業に関する条例制定について

- ① 太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギー発電事業に対し、市民の生命や財産を保護し、安全で安心な生活環境の保全、また地域と調和した適正な導入を求める条例の制定が全国で進められているが、浜田市においても条例の制定は必要と考えるが所見を伺う。

3. 外国人労働者の環境づくりについて

- ① 日本での外国人労働者は年々増加し、島根県においても昨年の統計では5600人、ハローワーク浜田管内においても757人で、増加傾向にある。

雇用する企業側においても外国人労働者は大切な人材であり、就労がうまくいくことは企業側の業績にとっても重要と感じるが、1番の問題点は言葉が通じにくいことによる様々な弊害と思う。

行政や公的な立場の側からも日本語の勉強会の開催など、何かしらの取組が考えられないか伺う。

- ② 外国人労働者が安心して働け、その能力を十分発揮できるように事業者に適正な労働環境の確保に取り組んでほしいという点について、働きかけをすべきと思うが所見を伺う。

4. 市民生活支援について

- ① 国は物価高騰対策について、重点支援地方交付金を、今回の補正予算で盛り込み、これから各自治体で検討し実施されていくこととなるが、物価高騰対策についての市長の基本的な考えを伺う。
- ② 今回の生活者支援の推奨メニューについてはまだ不確定の部分もあるが、「水道料金」や「学校給食費」の減免・免除について、ぜひ重点項目として検討し、できれば実施

してほしいと思うが所見を伺う。

5. 校内フリースクールの拡充について

- ① 令和6年度から不登校支援の取組として「校内フリースクール」が市内の小学校2校で試行的に実施されている。非常に良い成果が出ていると感じているが、現状をどのようにとらえているのか伺う。
- ② この事業は試行ではなくて、本格実施とし、他校にも拡充していくべきと考えるが所見を伺う。

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 17 番

氏名 岡 本 正 友

答弁を求める者
(口をつける)

☒ 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員長

発言項目及び要旨

1・新市長の市政運営について

(1)新市長の市政運営の方針と「現場主義」「対話」の実効性について

新市長は当選の挨拶において「市民との対話」と「現場主義」を掲げ、地域資源の活用や人材育成への投資を施策の柱としている。

しかし、懸案である三桜酒造跡地の活用方針には明確な説明がなく、また、市民の声として地域産業の現場であるお魚市場等での海水使用の運用や危険空き家対策など市の監督体制への不安の声も聞かれる。こうした点から、「現場主義」や「対話重視」がどのように具体的施策に反映されるかを質す。

- ① 市民との対話の具体的展開と、意見反映の仕組みについて問う。
- ② “現場主義”の定義と、市長・職員の行動指針としての運用方法を問う。
- ③ 三桜酒造跡地の活用方針と、地域資源・観光振興への位置付けを問う。
- ④ お魚市場における海水使用の活魚(生け簀)の運用における、安全性確保と衛生管理体制の現状を問う。

(2)市営住宅における消防訓練未実施と指定管理の適正運用について

- ① 市営住宅における消防訓練実施状況と未実施住宅の把握について問う。
- ② 住宅供給公社による業務内容の実施状況と課題を問う。
- ③ 管理委託契約履行の確認体制と改善方針を問う。

(3)危険空き家対策の推進と除却の遅れについて

老朽化が進む空き家は、倒壊や火災などの危険をもたらし、地域の安全や景観にも影響を及ぼしている。行政指導から除却まで時間を要する事例が多く、市民からは「対応の遅れ」への不満が寄せられている。現場把握の強化と、手続きの迅速化、地域との連携による実効的な対策について質す。

- ① 市内の危険空き家の現況と除却の進捗状況を問う。
- ② 所有者不明家屋や相続放棄物件への対応状況と課題を問う。
- ③ 除却補助制度の活用状況と手続き簡素化の取組を問う。

令和 7 年 11 月 19 日
10 時 28 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 15 番 氏名 小川 稔 宏

答弁を求める者 (○をつける) 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

- 1 メンタルヘルス対策とカスタマーハラスメント条例について
 - ①情勢や環境の変化に伴う職員のメンタル面の影響について現状認識を伺う。
 - ②カスタマーハラスメント条例制定に向けた取組状況について伺う。
- 2 深刻化するクマ被害への対策について
 - ①クマ等危険鳥獣捕獲に関し創設された緊急銃猟への対応状況について伺う。
 - ②中長期の制度運用に必要な捕獲者等の確保のための報酬や日当の考え方を伺う。
- 3 (仮称) 島根県浜田市風力発電事業における災害対策について
 - ①当該計画の環境アセスメント手続きの段階と、市としての関与について伺う。
 - ②尾根部の開削と掘削残土による地震、豪雨等の災害対策について伺う。
- 4 中心市街地のグランドデザインについて
 - ①中心市街地整備に関する道路拡幅に対する考え方を伺う。
 - ②全国チェーン等のファストファッション・フード店の誘致について伺う。
- 5 子ども施策に関する条例制定について
 - ①「浜田市こども計画」における子どもの権利条例検討の位置付けを伺う。
 - ②子ども重点施策と制定をめざす「子どもの権利条例」の基本理念について伺う。
- 6 国際交流の促進のスタンスについて
 - ①浜田市における国際交流の歴史的評価について伺う。
 - ②今後の国際交流の方向性について伺う。